

1 会議名

平成30年度 第1回 阿賀野市環境審議会

2 開催日時

平成30年6月20日(水) 午後1時30分から午後3時15分まで

3 開催場所

阿賀野市役所「303会議室」

4 出席者(傍聴者を除く。)の氏名(敬称略)

- ・委員: 田辺 正明、及川 紀久雄、関川 央、波多野 千代、清水 明子、
植田 信夫、伊藤 守(30分遅れる旨報告有)、(8人中 7人出席)
渡邊 景子(欠席)
- ・事務局: 山寄市民生活課長、宮嶋補佐、伊藤副参事、中山係長 (計4人)

5 議事

- (1) 平成25～29年度阿賀野市燃えるごみ・資源ごみの実績について(公開)
- (2) 平成29年度 阿賀野市内中小河川水質調査について(公開)
- (3) その他(公開)

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

なし

8 発言の内容 (以下より)

開会・あいさつ 事務局(山寄市民生活課長)

本日の会議は、阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開とする旨、告げる。次に、傍聴者はないこと確認する。会議中は、録音すること、議事録あるいは議事内容については後日公開し、阿賀野市のホームページ等で掲載することの了承を得る。

議 事

(1) 会長・副会長の選出について

事務局(山寄市民生活課長)

会長・副会長の選出に入ります。会長・副会長の選出につきましては、審議会規則第2条第2項の規定により「委員の互選により定める。」とあります。従いまして、委員皆様からの互選により選出をお願いするものです。

会長・副会長の選出について、ご提案はありませんでしょうか。

田辺委員

環境審議会発足当時から、会長に及川先生、副会長に関川先生から就任いただき、審議会もスムーズに運びました。引き続き、両名からお願いしたいというのが私の意見です。

山寄市民生活課長

会長には及川さん、副会長には関川さんとのご意見がありました。いかがでしょうか。

—異議なし—

山寄市民生活課長

異議なしということです。会長に及川紀久雄さん、副会長に関川央さんと決定させていただきます。会長・副会長が決まりました。今後の進行については、お二人にお願いします。

—及川会長、関川副会長は前席に移動。その後、それぞれ、自己紹介する。—

(2) 阿賀野市における今後の環境施策について

及川会長

審議議事の1、阿賀野市における今後の環境施策について、平成25年度～29年度ごみ収集の推移について、阿賀野市における不法投棄の実態について事務局の説明をお願いします。

事務局(伊藤副参事)：

—阿賀野市における平成25年度～29年度ごみ収集の推移について、説明する。—

及川会長

平成25年度～29年度ごみ収集の推移について、説明をいただきました。皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思っております。

波多野委員

安田地区はなんでも燃やせると説明がありましたが、市の担当者としては、分別している他の地区の方法とどちらがいいと考えますか。

伊藤副参事

わずか4万3千人余りの阿賀野市の中で、焼却処分場が2か所あり、収集方法が異なるため、家庭ごみの出し方が二つに分かれています。水原・京ヶ瀬・笹神地区は、紙製容器包装やプラスチック容器包装を分別して、燃えるごみを減らすようにしていますが、安田地区はそれらを燃やすごみとして出しています。新潟市のようにさらに細分化することも考えられますが、平成35年度に阿賀野市と五泉地域衛生施設組合の焼却場が統一されることを踏まえ設置された(五泉市・阿賀野市・阿賀町一般廃棄物処理施設整備推進協議会)検討委員会の中で、現在でもかなり高齢化社会しているのに、今後さらに深刻さを増す高齢化を迎えるにあたって、新潟市のような細かな分別が継続可能なのかという意見があると、渡辺委員から前回の環境審議会で報告がありました。新発田市では容器包装プラスチックについては、収集・中間処理のコストがかかることから、分別せずに燃えるごみとして処理しています。色んな考え方がありますが、リサイクルを進める上で、現在の水原・京ヶ瀬・笹神地区のやり方が、よいのではないかと考えています。

田辺委員

水原中学校の伊藤校長先生にお聞きしたいのですが、子供たちの環境教育としてどのようなことを重視しておられますか。

伊藤委員

二つの視点があると思います。ひとつめには3Rの推進です。3Rの推進は小中学校生活を通して学ばせることが大事と考えています。それが実生活にともなって学べるととてもいいのですが、大人がペットボトルをつぶさずに出している光景を見ると、3Rを教える大人の意識が進んでいないのかなと感じることがあります。二つ目には、子供たちが、このまま阿賀野市に住み続けても、阿賀野市以外の所に住んだ時でも、世の流れが分別になっているのにそれを知らないで育つことは、とてもかわいそうだと思っています。仮に、住んでいるまちがごみ分別に積極的でなくても、大人になった時にごみの分別やリサイクルの意味を理解していることがとても大事です。以前五泉市の学校に赴任したことがありましたが、なんでも燃やせるので、すごい火力だなと思ったことがありました。

及川会長

ありがとうございました。ところで、五泉地域衛生施設組合の炉はどのような方式を取っています

か。

宮嶋補佐

ストーカー炉です。

及川会長

昔、旧巻町の焼却処理施設は、溶鉱炉方式で家庭ごみから自転車までなんでも燃やしていました。ただ、燃料のコークスの値段が高く、コストがかかるので、今はなんでも燃やせるとはしていないようです。

宮嶋補佐

先ほど伊藤副参事の説明で、なんでも燃やせるとしたのは、プラスチック容器包装や紙容器包装を分別せずに燃やしているということで、金属などは燃やしているわけではありません。

及川会長

わかりました。ごみの種類により、多少排出量が上下しておりますが、全体では、ほぼ横倍ということで理解いたしました。

及川会長

次に報告事項の2、平成29年度 阿賀野市内中小河川水質調査結果について を提案いたします。事務局の説明をお願いします。

事務局(中山係長)

—平成29年度阿賀野市内中小河川水質調査結果について、説明する。—

及川会長

ありがとうございました。阿賀野市内の中小河川の水質調査結果を踏まえ、阿賀野市の中小河川の水質保全についてはどのようにあるべきか、皆様のご意見を伺いたいと思います。

田辺委員

頂いた資料は、29年度の単年度ですが、経年の資料があるということですが、これだけ見てもわからないところがあるので質問させていただきます。最初にお話しがあったように環境基準点についての河川の種類についてですが例えば阿賀野川の横雲橋、安野川の法柳橋、新井郷川では豊新橋、福島潟の潟口橋。これが大きなポイントとなっているかなと私は思います。これが、平成24・25・26あたりから、どれもいずれも若干ですけど(数値が)減少傾向にあると私は理解しているのです。今われわ

れ審議会が議論して策定した「阿賀野市環境基本計画」、これが平成25年から平成34年。10年間、これを計画期間ととらえて、今年がちょうど中間地点というふうでございます。そういう意味で、中間地点でこれらの環境地点の傾向とですね、本日いただいたこの地点、これって何か相関関係っていうのはあるのでしょうか。

中山係長

基本的には国の調査と県の調査をしているものと比較をしながら、実際に、例えば阿賀野川が汚れている要因がどこにあるということを推察しながら調査しています。来週、火曜日に阿賀野川河川事務所で、阿賀野川の水質調査に関係する県や市町村の担当者が集まって会議をするのですが、そういった場で、これらのデータを基にして、水質に関しての情報を交換しています。ただ、実際にその会議で、取得したデータを反映していくところまでは、県と国、市町村とそれぞれの立場もあり、福島潟に関わる河川の汚れがどういう形でどうなってかといったところまで、議論できていない状況です。

田辺委員

原因を聞いているわけではなくて、相関関係つまり周辺の河川が水質が若干改善しているのに、阿賀野市があがっているとか、阿賀野市がもっと改善していくとか、そういう見方ではどうなっていますか。

中山係長

それに関しても、福島潟にどのように影響して、連動しているかなどは、よくわかっていないというのが率直なところでは。

田辺委員

聞きたかったことは例えば環境基準点よりも、水質が若干下がっているのに、阿賀野市が上がっている。部分的に上がっているとかいった場合、何かしらの原因があると思うのですね。例えば下水道の普及率もそうでしょうし工場が新しく進出された。ここにありますが畜産配置うんぬんとか、色んな要因があると思うのですが、その辺の要因の分析まではやられていますか。

中山係長

阿賀野川とかっていう大きな河川に関しては、分析していません。

田辺委員

阿賀野川の数値が下がっている時と下がってない時の差は何なのか。何かそこに新しい工場ができて、そこがなかなか下がりにくいようだなとか。そう言った意味の分析です。

中山係長

それは分析しています。平成29年度分しか提示していないのですが、実は部分的に当市が把握しているところでもかなり水質が悪かったところが中小河川で実際にあります。だから公表しなかったという訳ではないのですが、その場合でも、下流域の阿賀野川の水質の数値が大きく変化するようなことはありませんでした。何もせずに、ほっておくと悪くなると思いますが、原因者にきちんとした指導を行い、その後、排水方法を改善して今は落ち着いています。昨年度に関しては、落ち着いた水準まで下がっている状況です。

田辺委員

原因が分かってくれば対策もとれますよね。

中山係長

そうですね、はい。

田辺委員

阿賀野市環境基本計画で定める最終年度の平成34年度の目標に近づくと、毎年審議会で検証していくということが我々環境審議会の役目なのかなと思っているものですから、そういう意味でももう少し時系列の資料があれば、ここに原因があつて、去年こうだったけど今年は…、みたいなものがここであるべきなのかなと思います。それは水質だけではなくて、ごみの問題も含めすべてです。単年度だけではなかなか見えないところが沢山あるなということでお聞きしました。

及川会長

はい、ありがとうございました。確かに単年度だけではなかなかわからない。これ、その他の事項でお話したほうがいいのかもかもしれませんけども、阿賀野市は環境白書って言うのはありますか。

伊藤副参事

ありません。

及川会長

ないですか。薄くてもいいから、そういった資料があると、経年的にどう変わってきたかよくわかるかと思います。それから阿賀野川流域が入る川とそうでない別のルートが違う福島潟とか、それぞれ分けられますか。河川の名前だけでは、我々にはどこにどの河川がどう流れているかイメージがつかないのですけど。

中山係長

川の書いてあるところの一番上の表があるのですが、その表の川と調査している記号のところの色分けしている形でB12とかB26とか書いてありますが、このピンクというかエンジ色で色ぬりされている

ところが福島潟に流入します。これらは、新井郷川水系と言われている河川になります。

及川会長

これは、やすの川というのですか。

中山係長

あんの(安野)川です。安野川と大荒川は阿賀野川の支流になります。安野川という川に大荒川も合流する形状になります。

及川会長

そうですか。でその下からは最終的には阿賀野川へ流れていく。

中山係長

はい、そうですね。あと色分けしている黄色の河川は、先ほど説明した工業団地の中にある籠尻川、これは調査地点2か所に分かれています。これも阿賀野川へ最終的に落ちる川になります。その辺の下からは新座川って言う紫でいうBの24番ってところがあるのですが、こちらも直で阿賀野川に落ちる支流の一つになります。あと残りの濃い青いものに関しては、B1って書いてある都辺田川、都の辺の田と川と書いてツベタカワと読むのですが、この阿賀野川の支流とそれに落ち込む支流関係がこの濃い青にしております。支流ごとで色分けを表しています。

及川会長

なるほど、そうですか。

中山係長

おっしゃる通り本当はこれの年度別毎とか色々作っておりますので、機会があったらそれを出させていただいて今回の質問にお答えできるような形にいたします。

伊藤副参事

中山係長、中小河川水質調査報告書が毎年出ていますよね。

中山係長

市でも公表していますが、経年の変化で阿賀野川の国や県のデータも合わせて、経年の表は作っておりますので、こういう場で議論ができるよう資料を今後用意いたします。

伊藤副参事

とりあえずこれと同じデータが5年分くらいありますよね。

中山係長

はい、あります。

伊藤副参事

とりあえず、この5年分の結果を後日みなさんに…。

田辺委員

次回の審議会で提示してもらったほうが良いと思われま

伊藤副参事

わかりました。

及川会長

採水ポイントとどっち方向から流れてくるのかっていうもね。

伊藤副参事

次回のときにその辺もわかるような資料を提出いたします。

田辺委員

時の変化を追いかけていくと思うのですが、同じレベルのほうが良いのかなど。

波多野委員

一ついいですか？

及川会長

はい、どうぞ。

波多野委員

農業用水に適した水質となって8mg以下となったところが京ヶ瀬工業団地のところで、相当上がって
いたということですね。5月は田植えの時期、水を一番使う時に、タイミングよく、ググッと下がったの
は何か手当をなされたのですか。

田辺委員

1年だけのスパンを見ると例えば阿賀野市では雪解け水が入ってくる地域なわけで、事業者が何も
しなくても、4月・5月は通常、流量は増えます。水量が増えますので、改善傾向の値が出るのです。
データの取り方は、平均値ではなく75%値を使います。これは、100個の検体があったら75番目と言
いう意味で、広く一般に使われています。

100回観測したら75番目の値を採用する。50だったら、その半分の30番目のやつを採用する、そ
ういうやり方です。農業用水の一番の渇水時期が夏頃になります。代かき時期は、水が豊富にあるの
です。

波多野委員

4月・5月はね。

田辺委員

夏になったら、1回中干して、その後、水が欲しいって時期に一番水が少ない時期に当たるので、水質が悪くなりやすい。川の水を多めに取水することになります。

波多野委員

それは7月・8月ですか。

田辺委員

そうですね。

中山係長

先ほどお話があったように、そもそもどこを採水しているわかる資料も用意していなくて、言いにくいのですが、市内の調査地点で、水質のデータが悪化している河川は排水目的の川です。これらの河川から農業用水をとるということは基本的にないのです。

波多野委員

農業用水は取らないのですね。

中山係長

農業用水を取水している河川で、調査地点のBODのデータが8.0mg/lを超える数値が出れば問題ですので、そうなった場合は直ぐに対処しています。今回数字が上がっているいくつかの採水箇所にて、直接農業用水を取水しているか所はありません。

波多野委員

田んぼには入ってこない。

田辺委員

全部ではないです。部分的に阿賀野川の水を止めて反復利用している。例えば駒林川は反復でポンプがたくさんついてますし昔堰を全部止めて水をとっていたという例も僅かですがあります。全体的な話ではなく。そういうところもあります。

中山係長

そういうこともあるのですけれど、今回は市内しか見ていないので実際は取水していません。

波多野委員

市内というのは阿賀野市ってこと。田んぼ。

中山係長

阿賀野市の中の採水地点をみているので例えば同じ川でも下流で新潟市まで流れていくと新潟市で調査しているところがいくつかある。大通川とか駒林川って言うと連結してやっております先ほどおっしゃったように、本来それを全部並べてここの地点の上流の阿賀野市が汚れていて下流が汚れていないって言うと明らかにうちの方が汚しているけど、下流の方がいわゆる数値が落ちているわけですがこのままにしておくとなぶん河川全体が汚れるので、阿賀野市に改善をお願いしようって話は新潟市とかはしているみたいです。阿賀野川は大河なので薄まってしまって、影響が少ないところも現実にはあるのです。ただそうとはばかり、言っていられないので、ここでこういう調査をしていってなるべく汚染の原因を減らしましょうと、努力しているのです。

波多野委員

工業団地なんかすぐに改善できそうな感じがしますが。

中山係長

籠尻川の汚染原因がはっきりしたので、県の地域振興局と一緒に工場に行って、指導しました。

波多野委員

1社がそうだったのですか。

中山係長

そうです。訪問して、現地を確認し、排水の水質を改善するように指導しました。もう1か所、畜産問題が起こった所では、事業者に改善をお願いして、徐々に数値を減らす作業もやっております。その際に、中小河川水質調査のデータが役役立っています。ただ、中小河川のBOD等の数値が上がった時点で、阿賀野川や福島潟でどのような影響があったかというほとんど影響はでていないのです。それを示す資料を次回、用意したいと考えています。

及川会長

はい、どうぞ。

植田委員

せつくなので、うち(新発田環境センター)が一番専門家だと思いますので表の数値の見方についてちょっと補足させていただきますが、波多野委員から4月・5月が悪いのではという指摘がありましたが、公共用水域の川の水質の数値測定っていうのは月に1回採水があって、その瞬間の1回バケツ投げたその瞬間の水質なのです。例えば4月の結果とか5月の結果とかって言っても4月・5月の平均的な値を表していないのです。たまたま、その瞬間の値なのです。

波多野委員

それ貴重でしょ。

植田委員

貴重なのですが、たまたまその日は悪かったのかも。と言うことも少し考えながら見ないといけないのです。BODが19って、悪い数値の月があるけれども、それは雨の日の翌日だった、といった水質は天候にも左右されるという観点で見るような姿勢も必要になります。そのために年12回測定するので、年間を通すと状況がわかるという意味で年間の代表的な値、75%値を見るのです。75って言うのは年間12回あると上から(悪い方から)4番目のデータをみるというやり方です。1番悪い籠尻川ですと4月の19が1番悪い数値ですが、75%値は、上から4つ目の3.3になります。

及川会長

3.3ですね。

植田委員

その年度の河川の水質のデータは、75%値で見るのが一般的なルールになっています。田辺委員がおっしゃるように経年的に75%値をみていくとその川の水質の推移がだいたいわかりますので、私も阿賀野市の中小河川の75%値の経年推移を見たいと思います。

及川会長

ありがとうございました。我々からすると瓢湖は町の真ん中ですし、瓢湖にどのような流入河川があって瓢湖に入って瓢湖から出ていくと。その辺なんか関川先生どうなの。

関川副会長

中山さんが詳しいかもしれませんが、瓢湖の川水は五頭山の水が入り込んでいます。五頭山の大荒川と安野川が、水原近くにくると大通川って言う川になります。

及川会長

オオドオリガワ(大通川)。

関川副会長

大通川。そこからですね。瓢湖に入り込んでいます。瓢湖の水は流れているというよりも淀んでいますよね。

及川会長

そうですね。

関川副会長

それと鳥があれだけの数がやってくることもあって、水生植物があれだけ繁茂して異常です。平成

に入ってからです。特にさくら池で繁茂しているのですが、あの繁茂したものが枯れて沈んでヘドロ化して堆積するのです。調査した結果が出ているのですが、だいたい瓢湖の深さの半分がヘドロだと思ってください。そういう数値が出ました。

及川会長

それは、ひどい。

関川副会長

瓢湖全体で34か所、我々2年間かけて調査しましたら、ヘドロの堆積量がだいたい水深のほぼ半分に近い。だから水深が半分ですね。1メートルの深さがあっても、水はその半分、50cmしかないという状態です。そうなりますと当然、地球の温暖化によって気温が上昇した際には、水温もぐんぐん上がる訳ですから、上がれば上がるほど水質が悪化します。そして腐敗が進みます。ヘドロ化が進んで堆積します。そういう悪循環の状況がわかりましたので、この数値を今議会でも審議しているはずですよ。

及川会長

そうですか。

関川副会長

改善に向けて歩き出すと思います。その方向性が出てくると思いますが、国のほうも動いてくださると思います。2年間調査した結果が出て今数値が報告されつつあります。その作業が終わったばかりです。そのような状況で、瓢湖の水がどういうふうな川に流れ込んでいるか中山係長説明して下さい。

中山係長

先ほどの中小河川の水質調査のところで大通川のほうへ最終的には排水されて、そのままくたいていくと福島潟のほうへ落ちるといふ形になります。取水の方も基本的には大通川です。大通川というのは大荒川という安野川の支流ですけどそちらから取水していますので五頭山系の水が入ってくると考えていただければよろしいかと思います。

関川副会長

大通川から取り入れて、また大通川のところに出ていくということです。非常にいい水なのです。

及川会長

浅いと結局温度が上がる。温度が上がると余計に汚れる。

関川副会長

そうなのです。そのとおりなのです。

及川会長

温度が上がるとある生物は、そこからいなくなる。

関川副会長

瓢湖は浚渫(しゅんせつ)しなきゃならないという状態ですね。

田辺委員

そうですね。何年か前までは、やっていたよね。浚渫をね。最近見たことがないけど。

関川副会長

そうなのですよ。最近やってないのですよ。

田辺委員

昔、浚渫している風景が新聞に載ったりしていましたよね。

関川副会長

去年からやり始めたのは腐敗物を少なくするために蓮とかヒシ、オニビシを7月と8月に刈っております。あれをやるようになってから少しきれいになった。植田先生もそう思いになりませんか。白鳥もきれいに見えるようになりました。去年からです。今年も係の人から聞いたのですが7月から水生植物を刈りはじめるそうです。これをやることによってヘドロの堆積量が減る。水質改善に向けての努力ですね。

中山係長

少し浅くなっているので、刈る機械を去年から入れたのですよね。

関川副会長

刈る事だけやってヘドロを除くことはなかなか予算がつかないとダメって言うようなことが言えるのかもしませんが、かつての瓢湖の歴史を見ても農民がやらせてください、農家の人達の手間賃稼ぎっていうのかな、手間稼ぎだよ。自分たちにやらせてくれないかっていうような陳情が当時の役場ですか出されている書類があります。(時代が変わり)今農家の人達は、やらないと思います。今は、業者に委託して本格的な浚渫作業をしなければいけないような状態に来ていると思います。

及川会長

今、瓢湖っていうのは河川ですか。それとも…

田辺委員

もともと農業用ため池で、河川ではありません。

及川会長

大通川の中の河川の一部ではない。

田辺委員

大通川に直接入り込まないというような考え方です。

及川会長

その管理は阿賀野市ですか。県ですか。それとも国土交通省なのでしょうか。

中山係長

場所の所有管理は阿賀野市です。

及川会長

財政的に結構厳しいですよ。一部でも国が管理していれば、別の措置ができるのですけど。

関川副会長

この審議会でも瓢湖の水質が話題になったということを議会に報告されると思いますが、それによってまたいろんな方向性、改善に向けての努力も予算が出てくると思います。

及川会長

我々は、白鳥が何千羽、来たって言う数字だけ見っていますが、本当は瓢湖の環境全体を考えないといけないと思います。将来的にも。

関川副会長

そうですね。今日、私資料を持って来ていますが、先ほど大まかに言いましたが、1mの深さ、水深があれば半分がヘドロで水が半分…。34か所、2年かかりました。船で調査に出るのですが、船で出ていく期間が決まっております、白鳥飛来中の半年間は出られないのですよ。船を出しちゃいけないのです。白鳥が来ていない時、船を出そうと思ったら今度はハセヒシが一面で船が動かないのですよ。大変なことをしました。それで34か所、守る会のほうで調査しました。3m近い塩ビ管を2m50cmくらい垂直にたてて、水とヘドロを採取しまして34ポイント全部結果を出しました。その数値が今議会上がっているし業者の方へ行っている最中です。

及川会長

そうですね。なんとかしたいですね。

波多野委員

その時の費用はどこから出ているのですか。

関川副会長

実はですね。ダウ・ケミカル日本株式会社から補助金を頂いたのです。旧笹神地区の会社で、そこがすごく環境に関心を持って頂いております、さっき言った塩ビ管だとかの費用を出してくださいま

した。先生、ご覧になってください。これがヘドロです。

及川会長

ああすごい。場所によって…。調査したものをまた次の審議会にわかるようにみなさんにお見せできればいいですね。

関川副会長

そうですね。ヘドロを皆さんに回しますね。

及川会長

まわしてください。

関川副会長

ご覧ください。土色になっているところがヘドロです。

及川会長

浚渫もあれですけど、ヘドロがひどいですね。

波多野委員

費用がかかる。

関川副会長

費用よりも肉体的な労働が大変でした。船をこいで行って船の上で作業するので、バランスをとるのが難しいのですよ。

及川会長

ヘドロもそうですが、今いっぱい出る水草はなんというのですか。

関川副会長

水草はね、結局一番厄介なのはオニバス、蓮でしょうかね。異常に繁殖する蓮。

及川会長

オニバスですか。ヒシなんかも…

関川副会長

ヒシです。ごめんなさい。ヒシです。オニビシ。

田辺委員

オニバスはほんのちよつとしかはえてない。保護していますよね…。

関川副会長

オニバスがそれくらい沢山あればいいのですけどね。オニヒシの方です。それとこれからは蓮です

ね。古代バスですね。固い花しか咲かないのです。古代バスです。根っこ掘ると親指の太さくらいしかないです。蓮のレンコンが食べられません。私は食べたことがあります。皮をむいて食べられるのですが、筋っぽくって、おいしくないのです。われわれが口にしているレンコンは、大口レンコン。シナバスって言うのです。

田辺委員

蓮の実は美味しいですよ。

関川副会長

実は美味しいです。蓮の実も食べるし蓮のお酒はあるし、オニビンもまたそれを羊羹の中に入れてお菓子屋さんがするお菓子の材料の一部に使っている。そういう使い方ありますね。

及川会長

いずれにしてもヘドロをなんとかする方法ですよ。あれは金かかるし……うん。

関川副会長

蓮刈りをするのに今は、船に乗った機械で刈っています。旧京ヶ瀬地区の小林組が1千万近い機械を購入しまして、それを船につけて蓮刈りをしています。刈りっぱなしじゃいけないわけですよ。刈った蓮をまた陸揚げしなきゃならん。

及川会長

その間引きをしないとイケない。

関川副会長

はい。また中にこういう意見をもありまして、蓮の花は本当にきれいだから刈らないでくださいっていう市民の声もあるのです。それと瓢湖に飛んできている野鳥で卵を産んで生活している鳥もいます。

及川会長

蓮のところで。

関川副会長

そういう野鳥もいるのですよ。そういう野鳥が子育てをしているときに船で入ってやられちゃ困るとかね。蓮刈りするのにも、いたしかゆしっていうか色々問題があるのです。

田辺委員

ヨシゴイでしたっけ。

関川副会長

ヨシゴイですよ。ヨシゴイって一種の…

田辺委員

小さいかわいい鳥ですよ。すごい。

関川副会長

一番小さいサギの仲間ですけどサギの仲間が一番小さいサギです。

田辺委員

サギの中でも一番小さい。ちょっと茶色っぽくて筋があって…みんなそれを写真に撮りにくるのですよ。

関川副会長

魚をキャッチする写真を撮りたくて夏になりますとヨシゴイを撮りに瓢湖にカメラマンがこられますね。それからオオヨシキリ、コヨシキリっていうヨシキリが瓢湖でたくさん子供を育てています。

及川会長

話つきないですけど是非これは別の機会をお願いして、その報告書ができたときにお配りして次回の審議会でまたお願いできればと思います。

関川副会長

出来たばかりのこの資料は、次回の審議会でお示したいと思います。

伊藤副参事

瓢湖周辺に公園管理事務所があるのですが、関川先生のベースキャンプということでそこで次回審議会を開催したらどうでしょうか。

及川会長

そうですか。それでもいいですね。じゃあ次回は瓢湖をテーマにしていかに環境をよくするか…

山寄市民生活課長

場所だけ借りて…。

及川会長

あそこいいですね。一応今の報告はこれで打ち切りではないのですが…。事務局から最初にありましたみなさんからのご意見を環境政策、阿賀野市が何をすべきか、ということでご意見を頂ければと思います。はい。清水委員。

清水委員

瓢湖の白鳥がすばらしいことや、蓮の花がきれいだと思っている人とかいっぱいいらっしゃることは

素晴らしいことです。だけど、ごみの環境問題も目をつぶってはいけないと思います。ところが、この実態について知らない人がたくさんいると思うのです。私も勉強不足で申し訳ないと思うのですが、25年くらい前にできたごみ焼却場、環境センターですが、できたばかりのころも見学させていただきましたけど25年後に再び「市民環境講座」で見学させていただきました。25年前と今とでごみの分別が、非常に変わっていたことを学び、勉強になりました。プラ容器包装の処理場の早東商店も見学し、ベルトコンベアでいっぱい流れてくるプラスチックを手作業で分けて、それを固めて大きなブロックにする光景を見せていただきました。プラって書いてあっても汚れているものは出せないのに、出している人はいっぱいいらっしゃいます。汚れたプラごみなどを一つ一つ手作業で取り除いている大変な作業を見て、非常に参考になりました。環境問題は色々あってきりが無い、というかすごい奥が深いのでこれからも勉強していけたらいいなと思います。

及川会長

はい、ありがとうございました。確かに、分別本当に大変ですよ。私も怒られています。例えばペットボトルの時は上の皮だけか…。

波多野委員

ラベル…。

及川会長

はがしましてまた分けてと。それから、醤油のパックも別々に分けなければならず、大変なのですけれどね。何でも燃やせばいいのではないですね。どうぞみなさん、阿賀野市の環境政策についてご意見をいただければと思います。

波多野委員

ごみ減量という言葉が正しいかどうかは別にして、ごみを減量する一番手っ取り早い方法が、生ごみをどうするかという問題だと思います。そこで、すごく小さい事を積み重ねるよりも生ごみをどうするかで目標が全部達成できるような状況なのですがその辺の施策は阿賀野市では全く皆無。みなさんお庭を持っていらっしゃるって、ごみだけは自分で処理できるのです。プラスチックはどうあがいたって、自分で処理できないのでお願いしなきゃいけないのですが、生ごみは自分のお庭に埋めるとかそういう処理ができるのです。その辺を少し取り組むだけで、減量に大変貢献するので、都心のマンションで生活している人とは違って、阿賀野市ではできると思うのですけれど、その辺の取り組みは今後考えていらっしゃいますか。

伊藤副参事

コンポストは希望があれば、ホームセンター等から買ってきたものに対して3千円補助しています。電気式のごみを乾燥させて肥料にするのは2万5千円です。このように若干ですが、市民の方から希望があれば補助金をだすような制度がありますが、大々的に行う予定は阿賀野市ではありません。

及川会長

はい、どうぞ。

植田委員

管内の先進事例のご紹介ですが、聖籠町の環境審議会に出席した際に、聖籠町ではすでに生ごみをもえるごみとは別に「資源ごみ」として回収しています。そのまま堆肥になる有料の生ごみ専用ごみ袋まで使って、しかもごみ袋が有料なのです。それで出してもいいし、回収ポストに自宅から持ってきたバケツで直接投入するなどして、生ごみを回収して町で堆肥化しているという報告がありました。

及川会長

いいことですよ。家庭とか料理屋さんでは生ごみの肥料化という取組はものすごくいいと思います。ただ、新潟市も同じようにやっているのですがコンポスト、ようするに家庭用の庭を掘り設置する。あれでやりますと、本当は非常に最悪の行政指導なのです。堆肥というものがみなさん間違っているのであれば結局単なるごみ捨てだけやらせている。結局、腐敗物を畑に入れている。腐敗物を畑に入れるとそこで何が起こるかということそこに害鳥がよってくる。そしてそこからガスが出る。あるいは地球温暖化のガスが出る。もちろんアンモニアも出るしメタンも出ますし「インドール」や「スカトール」(便の匂い)も出ます。そういうのを市自身が推奨しているのですよ。市がお金出してそんなことしたらだめですよと色んなところで言っているのですが、「予算とっているからやめることはできません。」等とやめられずにいます。結局、それが市民に間違った堆肥思想を植え付けているのです。みなさんは、ホームセンターに行くと、堆肥と書いてある商品を見ると臭いがすると思います。特に鶏糞は、これはもう腐敗物です。完全に腐敗物。「腐敗」と「腐熟」は違うのです。腐敗物を使うから害鳥が寄ってくるし虫もくる悪循環です。聖籠町がそういう形できちっとした処理場をつくれば、非常にいいことだと思います。

植田委員

聖籠町の報告ではうまくいっていると聞いています。農協で、地場産系の店舗でそれを売っているそうですけども、うまく回っているということだそうです。

及川会長

それはいいことじゃないですか。「腐敗」と「腐熟」とを簡単に見分ける方法は、手にとってみて土の

臭いがすれば大丈夫です。土の臭いでない、何か異臭がするとか何か別の臭いがするとかになったら、堆肥ではありません。堆肥は最終的にはサラサラと砂のようになります。

田辺委員

個人でできるようなものじゃないと思いますね。

及川会長

とつてもとつてもできません。

植田委員

さらにもっと大がかりな例は長岡市です。下水道汚泥と一緒に処理するってことで長岡市さんは生ごみの収集日を別に設けてやっています。それはもう大がかりなプラントで下水道汚泥と市民から集めた生ごみを一緒にして再処理して堆肥化しています。

及川会長

そういうのは、完全に分解していいと思います。

植田委員

そのガスを使って発電もしています。下水道汚泥だけよりも生ごみをまぜたほうがいいと言うことで行っているようです。

及川会長

発電でね。リサイクルによるよい結果があっちこっちに出ていますね。あれ生ごみがないとダメなのです。発酵がね、うまくいかないのですよ。阿賀野市さんはそれほど大きな規模じゃないから施設作るは難しいかもしれませんけどね。

関川副会長

私、子供のころ新発田で生活したことがあったのですが家庭の生ごみは新発田市近隣の農家の方が朝もらいにきましてね。それで、魚の内臓から野菜くずから何でも出すのです。それを豚の餌か何かにして、秋になると農家の方が、お礼に生産物の一部を配って歩くのですよ。私の子供のころには、生ごみは自分の家庭で処理していましたね。

及川会長

そうですか。

関川副会長

全部じゃないでしょうけれども…。今は、農家の方が集めにくるなんてことは、ほとんどないと思いますけど。

及川会長

以前、野菜くずは集めていたかもしれないですけどね。まあ、阿賀野市さんがコンポストを進めているところに、余計なことを言いましたけれども。

伊藤副参事

ちなみに去年は、コンポストは4つしか補助していません。ほとんどやってないと同じです。

及川会長

3年くらいかけて、一生懸命やれば別ですよ。

波多野委員

私は庭の草を取った時にコンポストに入れたり、生ごみを水切りして「大地」って言う産直のところの生ごみの処理機のところに持って行ったりしています。3通りくらいの方法で生ごみは市のごみ収集に出さないことにしていますが、それを堆肥にして活用するところまでは行っていません。ただ、極力自家処理できるものは処理するという方法をとっています。私たちの子供の頃、母親は、生ごみをみんな土に埋めていましたので、庭に埋める方法は何の違和感もないのですけど。

及川会長

昔は草も何も燃えるものは一緒に燃やして畑の中に入れていたのですよ。今は燃やせませんからね。ところで、波多野委員の省エネクラブで、何か阿賀野市でこんなことをするといいですよってアイデアはないですか。

波多野委員

私は、派遣された小学校などで「ごみの収集をする方のことを思っでごみを捨てていますか」と聞いています。ごみ収集車に、水分を含んだ袋を投げ込んでピシャとなったら、自分が収集する側だったらどう感じるか。皆、すごく嫌だと思うのです。捨てる時、それを処理する人、次の人が困らないような捨て方をしましょうと小学4年生に教えています。普段の生活習慣・マナーの習得が大切だと思っていますので、阿賀野市でも、そんなところも子供の頃から教えたらどうなのかなと思います。次の人がどう思うかでそれを処理するか、そこを考えてごみを出すことが大切だと思います。ところが実際は、自分の所だけきれいになればいい、なんでもかんでも出してしまえばそれで終わりという考えの人が多いです。ペットボトルは、リサイクルできるからとリサイクルボックスに投げ入れて、それで済むと思っている人が大多数です。リサイクルされるペットボトルは、大きなエネルギーを使ってようやく次の製品になります。リサイクルには膨大なエネルギーが必要だということを認識してほしいのです。「ペットボトルを使わないで、マイポットにする」等、小さなことでも一人一人がやれば大きな結果が出るのでは

ないでしょうか。そんなところを阿賀野市で子供の頃から教えたらどうなのかなと思います。

伊藤副参事

波多野委員は阿賀野市内の学校にも来て、環境学習の講師などをされているのですか。

波多野委員

阿賀野市の老人大学で、2・3回お邪魔したことがあります。

及川会長

事務局の方で次回の審議会をいつごろお考えでしょうか。

伊藤副参事

11月頃ということによろしいでしょうか。

及川会長

市役所の方もご予約もあることから、日程はまた後程として、今日出されたようなご意見の中で必要な資料を整理し、出させていただきたいと思います。阿賀野市の水と空気。それから、今日はBODだけでしたが、中小河川の他のデータも出してください。今農業も非常に省エネになってきて喜ばしい限りです。ドローンで畑の作業をしたり、農薬もできるだけ使わないように工夫したりと、いろんなものの管理がしっかりしてきていますので、以前のように大型ヘリコプターで、一斉に農薬を撒くなんてことはなくなりました。昔はひどかったですよね。

伊藤副参事

昔、(水稻の航空防除)を担当して、農薬散布を行っていました。

波多野委員

(農薬を)撒いてたんですか。

伊藤副参事

昔ですよ、旧笹神村の時です。

及川会長

最近はドローンを使うようになりましたね。

伊藤副参事

現在、阿賀野市では、水稻防除の農薬散布はラジコンヘリコプターで行っています。

及川会長

おもちゃっていうかおもちゃじゃないですけどね。

関川副会長

次回、私の資料をね。コピーしてもらえますよね。

及川会長

みなさんにご理解いただいて、次回の環境審議会では、先ほど清水委員がおっしゃった処理場を1時間くらい見学できるとよいと思います。

関川副会長

笹岡にある環境センターは、私もよく知らないのですよ。

及川会長

用意された議事については以上ですが、ほかに何かございませんか？

—なしの声あり—

ないようですので、議事を全て終わり、今後の運営について、事務局に引き継ぎます。

山寄市民生活課長

はい、只今は慎重なご審議をいただきまして大変ありがとうございました。では閉会の挨拶を関川副会長からお願いいたします。

5. 閉会あいさつ

関川副会長

皆様から貴重なご意見をいただきました。県環境センター長の聖籠町の生ごみ収集の話。五泉市・阿賀町と一緒のごみ焼却場計画がどうなっているのか。野鳥にやさしい瓢湖を整備する具体策は等など、次回も審議することは沢山あると思います。様々な意見が出ましたが、事務局ではこれらの意見を基に、今後の阿賀野市の環境保全に生かす取り組みをお願いいたします。開催時期は白鳥が一番多く飛来する11月中旬から下旬がいいかなと思います。寒くもないし雪も降りませんし、そのころにセットしていただければ、この会がもっともっと盛り上がると思います。

以上で、本日の審議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。